

夏休み映画祭



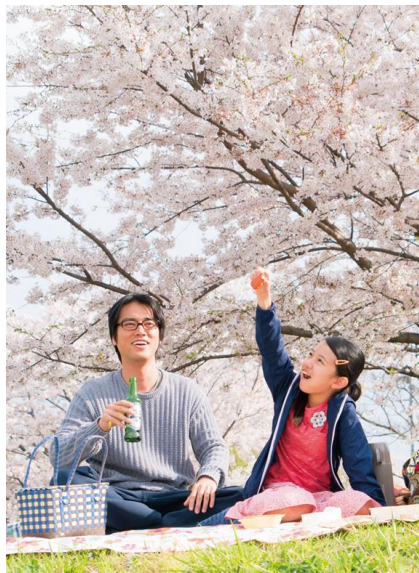
3 週目

映画「彼らが本気で編むときは、」上映会



開催日 令和4年8月6日 (土) 午前の部 9:30~11:45 (上映のみ)

午後の部 13:30~15:45 (上映のみ)



上映作品

『彼らが本気で編むときは、』

(2017/日本/127分)

ストーリー

優しさに満ちたトランスジェンダーの女性リンコ (生田斗真) と彼女の心の美しさに惹かれ、すべてを受け入れる恋人のマキオ (桐谷健太)。そんなカップルの前に現れた、愛を知らない孤独な少女トモ (柿原りんか)。
本当の家族ではないけれど、3人で過ごす特別な日々は、幸せに満ちた素晴らしい時間だった・・・。
桜の季節に出会った3人が、それぞれの幸せを見つけるまでの心温まる60日。

© 2017 「彼らが本気で編むときは、」製作委員会



参加者の声

私は大学生で、大学のゼミで家族について取り上げますが、そこでトランスジェンダーや虐待、養子などについて、この映画に関係するテーマを学んでいるので、今回の映画を観ました。トランスジェンダーについて、非常に考える機会となり、私のゼミでもこの映画のことについて発表したいと思いました。
また、様々な問題が重なり合う話で、これが現実にも起こりうる、もっと言えば起こっていることなので知ることができて良かったです。
(10代 男性)

とても良かったです。たくさんの人に見て欲しいなと思いました。子どもを育てるということ、大人であるということを考えさせられました。
(30代 女性)

普通とか異常とか何をもっていえるのか?性的マイノリティーの人権がきちんと大切にされる社会はマジョリティーにとってもきっと生きやすく優しくなれると思う。家族、人のつながりの多様さももっと認められることを願っています。
(50代 女性)

複合的なことが描かれていて、でも決して特別なことでもなく、美化されてもなく、いろいろ考えさせられました。
(40代 女性)

想像していた以上に美しい映画でした。人と人が愛すること、大切に思い合うこと。それは、社会でスタンダードとされている枠組を超えるものであること、スタンダードが正しいと決めつけることで、様々な弊害が生まれることをしみじみ感じた。
(50代 女性)

人間の本质は、「愛」
(70代以上 男性)

なぜか、と言われたらとても難しいのですが、すごく泣いてしまいました。
家族の形、それぞれの幸せ、認め合うこと、いろんなことを考えるきっかけとなる映画でした。とてもよかったです。
(20代 女性)

LGBTQの方が普通に生活することが大変であることを改めて知ることができた。
社会がもっと理解していかなければいけないと感じた。
(50代 男性)

少しずつ世の中は変わってきているけれどリンコさんの様な人が何の後悔なされることもなく生きていける世の中になればいいと思う。
男も女もなく“やさしさ”の底辺にある世の中。
(70代以上 女性)

アンケートにご協力いただきましてありがとうございます。
以上で夏休み映画祭の報告を終了させていただきます。